

記録：山田 事務局(大野市) 進行：佐野 事務局(小浜市) 発表：奥山さん(越前市)

他のメンバー：中内さん(敦賀市)、小澤さん(鯖江市)、石田さん(池田町)

グループで話し合った際の意見や課題、特に印象に残った発言等

委員から各市町委員会が取り組んでいることなどを発表いただいた。

○中内さん(敦賀市)

- ・以前は事務局が用意する資料の説明を聞くだけのような状態だったと聞いている。
- ・平成20年ごろからは、1期2年の当初に活動テーマを決めている。  
H20・21 親の教育 H22・23 家庭の教育力向上 H24・25 公民館の在り方  
H26・27 公民館活動の活性化 H28・29～30・31 家庭教育支援(☆)
- ・☆家庭教育支援をテーマとした2期4年で「家庭教育ハンドブック」を作成した。



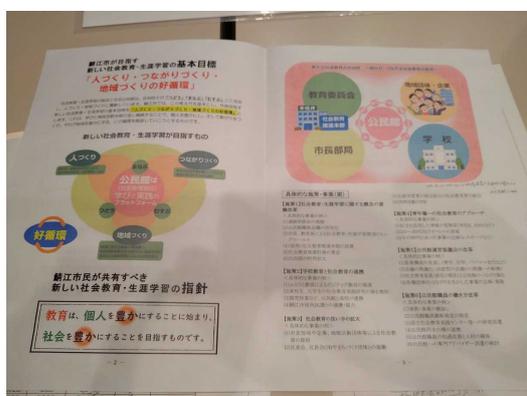
○石田さん(池田町)

- ・人口の減少が進み、中学生は40人しかいない状況になっているが、冠峠道路やその他にも越前市～岐阜へ抜ける峠道路が開通して、町外、県外からの来訪者は増えている。
- ・30年前に「池田の宝物」をテーマに町民から募ったことがある。(ex.満点の夜空...)
- ・社会教育委員の取組として、もういちど「池田の宝」を考えてみようということで、「池田に住んでいる私にとって大切な宝物」を町民に募集することとなった。
- ・委員は町内の団体(こども園、学校、公民館、婦人会など)へ説明に回った。
- ・人口の減少が進む中で、例えば文化祭の発表者、来場者が減ったり、各集落などでの秋祭りがなくなったり、地域の活動が下火になっている。
- ・このような中で、ふるさとの良さを再認識して、ちいきづくりにつなげる「シビックプライド」を取り戻す取り組みだと考えている。



○小澤さん（鯖江市）

- ・委員に就任し10年が経過した。そもそも社会教育に特別興味があったわけではなかった。
- ・就任した当時は用意された資料の説明を受けるだけの会議に、徐々に疑問を感じるようになった。
- ・鯖江市は令和3年までは県内唯一人口が増加していた。
- ・しかし令和3年をピークに減少している。地域コミュニティの弱体化が顕在化してきている。
- ・令和5年に教育委員会から「これからの社会教育・生涯学習の在り方について」諮問を受けた。
- ・委員会では、「人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環」が鯖江市が目指す荒らしい社会教育・生涯学習の基本目標とする答申をまとめた。（令和6年1月）
- ・活動の拠点は公民館として、市、地域団体・企業、学校が連携して取り組むことと位置付けた。
- ・ただし公民館に様々な業務が集中しているため、業務の棚卸し、活動の見直しをしながら行うこととした。
- ・現在は、答申をもとに計画策定委員会を立ちあげて議論を行う中で、活動のかじ取り役となる「社会教育推進本部」を市長部局に設置することを求めている。
- ・これは、社会教育・生涯学習は教育委員会部局だけではなく、市全体に広く関わることであるためである。



○奥山さん（越前市）

- ・委員に就任して4年目。市壮年協議会からの選出。（地域の農地水の会長も務めている）
- ・そもそも加盟団体が減少していて、市壮年協議会の存続自体が難しい状況となっている。
- ・このような状況の中で、各地区のお祭りに協力することに取り組んでいる。
- ・例えば、白山地区の集落祭でバーベキューなどで交流しながら新たな会員募集を行う。
- ・中学校の体育館でコーヒーを飲みながら芸能発表を見るなどの催しに参加する。
- ・ドローンの実演会など

